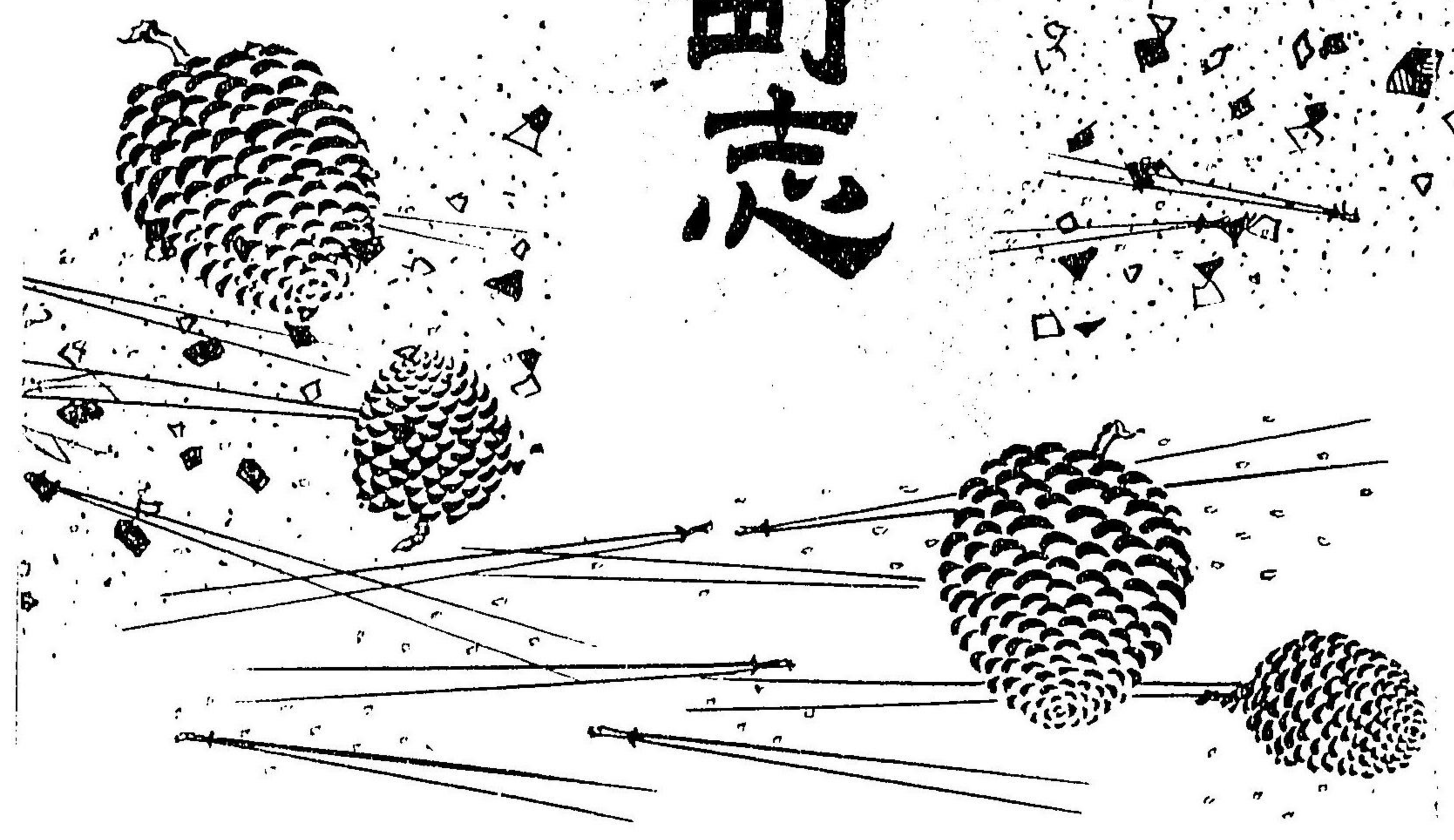


224  
0  
113

# 豊後御越町志



緒言



青海ニ浮ビ波浪靜ニ開明ノ影ヲ宿トシ諸  
ニ趣キ就中衛生醫學最モ進歩シ國民大ニ  
シ避暑ト云ヒ避寒ト云ヒ若シ  
求ムルヤ切ナリ  
地タルヤ土地高燥閑雅氣候温和ニシテ前  
ハ渺々タル豐海ニ臨ミ後ハ巍々タル富岳ヲ仰ギ月ニ宜シク



華ニ富ニ四季ノ眺望佳絶ナリ加之古來特效ノ温泉數箇所ヲ  
有シ入浴頗ル便利ニシテ誠ニ世ノ避暑避寒若シクハ平素保  
養者ノ爲メ最モ適當ノ仙脚ナリ而モ只惜ムラクハ本町從來  
此靈泉ニ勝景ヲ汎ク天下ニ發表ノ途ニ乏シク世人未ダコノ  
仙境ヲ知ルモ少ナキヲ以テ茲ニ靈泉ニ勝景ヲ普ク江湖  
ニ廣告シ世ノ難症者ヲ救ヒ或ハ保養者ノ攝生ヲ助クルハ蓋  
シ地方人士ノ義務ニシテ又地方隆榮ノ最良策ニ謂フ可シ然

而シテフシガ發表ノ好策タルニシテ足ラズト雖須カラク先  
本町志ヲ刊著述スルニ如クモノアラザルナリ予深クコトニ  
感ズル處アリ今回當町有志諸君ト相謀リ本書ヲ編纂ス而モ  
此書漫遊中卒爾ノ起稿ニシテ或ハ脱漏ナキヲ保セズ看者幸  
ニ之レヲ諒セヨ

明治三十五年七月

編者識

## 豊後御越町志目次

### 第一章

御越町

沿革。 位置。 神社。 佛閣。 勝景。 重要物産表。

旅客調査表。 七嶋庭由來。 御越町標木ヨリ各地へ至ル里程表。

大分町元標ヨリ各地ニ至ル里程表。 各街道里程表。 氣船賃金表。

御越町人口戸數田畑山林宅地鑛泉反別表

馬車賃金表。 御越町役場銀行

### 第二章

本町温泉記

龜湯泉。 四ノ湯。 柴石。 御夢想湯。 明礬湯。 濱田湯。 温美湯。

筋湯。 湯の花

### 第三章

豊後御越町名家録。

御越

本町は昔の籠門庄にして明治推新以前は古市内籠門野田平田龜川の五村に分れ後ら明治九年の頃古市内籠門の二村は合して内籠門村となり平田は龜川村に合し降て明治二十三年市町村制實施の際右三村を合して御越村となり同二十四年九月大分縣令を以て御越町と改められたり而め本町御越の町名を附せし所以んは當町大字内籠門に御越(或は御越)と稱する靈山據てこの山上に奇松あり周り六尺五寸長さ拾六間餘蜿蜒地に横はるの狀恰も大蛇の如し古(大皇)四十六代聖武天皇神龜四年三月應神仲哀兩皇の神靈この御輿山の松樹に神懸りし玉ひ土人之れら龜山の籠門を以て是(山)を御輿山と云ひこの松を御越松と稱す而め當町民は悉く該籠門八幡宮の氏子なりと以て今回市町村制實施の際此の故事に因より御越を以て本町に名けたるものなり  
本町太古の沿革は文獻の徴す可きものなく其詳細を知る能はず、され共建久年中大友能直當國の國主となりしより以降累代大友氏の領地となり大友氏亡びし後は概ね徳川幕府の直轄にして其略歴左の如し

建久四癸丑年より

文鏡四乙未年まで

一豊 後 大守 大友 公

四百三十九年間知行

慶長元丙申年より

同 四年まで

一宮 部 法 印 是 淨 坊

幕府 公 料 代 官



元禄元辰年より

同 四未年まで

一三田次郎左衛門

四年間支配

元禄五申年より

同 十年まで

一小長谷勘左衛門

公料代官

○四

元禄十一寅年より

正徳三年まで

一室七郎左衛門

公料代官

十六年間支配

正徳四年より

享保三年まで

一南條金左衛門

三ヶ年間支配

享保二酉年より

同 八年まで

一池田喜八郎

公料代官

七ヶ年間支配

享保九辰年より

同 十八年まで

一増田太兵衛

公料代官

十年支配

享保十九寅年より

寛保貳戌年まで

一岡田庄大夫

幕府公料代官

九ヶ年間支配

享保三寅年より

延享四卯年まで

一小笠原右近將監

五ヶ年間預り

延享五辰年より

寛曆三年まで

一岡田庄太夫

公料代官

六ヶ年間支配

寛曆四年より

同 七年まで

一岡田九郎左衛門

公料代官

四年間支配

寛曆八寅年より

元和八年まで

一榊斐十太夫

公料代官

十四年間支配

安永元年より

同 五年まで

一榊斐富治郎

公料代官

五年間支配

○五

安永六百年より

九年間支配

天明五年まで

二楯 斐 初 負

公 料 代 官

天明六年より

七ケ年間支配

寛政四年まで

二楯 斐 造 酒 助

公 料 代 官

寛政五丑年より

一年間支配

同 一 年 まで

一萩 原 彌 五 兵 衛

公 料 代 官

寛政六年より

三ケ年間支配

同 八 年 まで

一菅 谷 彌 五 郎

公 料 代 官

寛政九辰年より

三ケ年間支配

同 十 一 年 まで

一淺 岡 彦 四 郎

公 料 代 官

寛政十二年より維新まで

嶋 原

一松 平 主 殿 頭

支 配

### 位 置

本町は大分縣豊後國速見郡の中央部に位し縣廳を距ること四里二十二町余東は菟蓐灣に濱し南は石垣朝日の二村に接し西北は南端豊岡の兩村に界す

而して豊前街道は當町の海濱を貫通し交通便利市街段賑にして百貨四方より輻輳し山海の物産日用の供給品何一ツ不自由なく且古來特効の温泉數箇所を有し特に氣候溫和風光佳絶にして世の入浴者若しくは文人雅客の來遊するもの頗る多く誠に南豊唯一の樂土なり

### 神 社

#### 八 幡 竈 門 神 社

抑この八幡竈門神社は本町大字内竈門龜山に奉祀す祭神は人皇十五代應神天皇の神靈にして四十六代聖武天皇神龜四年三月十五日龜門庄内竈門村宇賀城の峯に仲哀天皇の神靈と共に出現し御輿山の松樹に神懸りし給ひて歷を龜山の竈門宮に合祭し齋さなは永く國家鎮護の冥加を垂れんと神託により土人龜山櫻樹に勸請し奉り竈門宮三十三神の靈代と相殿に合祀す之れ三月十五日櫻會祭恒例の起原なり後五十四代淳和天皇天長三年三月十五日神功皇后の神靈を豊前宇佐宮より勸請し以て八幡竈門神社と稱す古は郷中大社にして八十三代御烏羽天皇建久年中大友能直公國府たりし頃尊崇深くして社殿改築し社領若干を寄せられ年中數度の祭資に充を以て武運長久の祈願社た

りしが降て百六代正親町天皇元龜元正西の六亂に逢遇し社殿古書類古器物等概ね兵火の爲め焼失せ後社殿を再興し奉るも社領は天正の末へ大友の臣宮部某年入の際没收す百八代後水尾天皇元和元年五月豊前小倉國府小笠原氏當社變遷の衰頹を憂慮し舊領に回復せんと九町八反歩の神封を寄せられしも爾後種々災害に罹り現今僅に存す尙本社は神祇伯家の所屬にして寛延三年神祇伯雅富王殿下の扁頭鈴及び寛政元年同資延王殿下献納神燈寶物等今に保存す

三月十五日  
年中大祭日 四月二十日  
十月十五日

卿社八幡宮神社由來一説

社殿記曰龜門莊龜山者日本武命及神功皇后西征之時遊行宮徵兵之地也宣宗敬潔祀於是始降三十三に即國常立命天照大思姬命端津姬命市杵嶋姬命素盞雄命天忍穗耳命天穗日命海津彦根命天津彦根命椋樟日命底筒男神中筒男神表筒男神天兒屋根命天太玉命  
武甕槌神。建御名方神宮寶姬命。大山祇命。加茂別雷命  
大山昨命高麗神荷稻魂神。大物主命日本武尊經津主命  
天照大御神荒魂。月主都姬命廣坂皇子。忍照皇子

豊後命。金山彦命

稱謂龍門宮大神豐美伊司祭祀

聖武天皇神龜四年丁卯三月十五日仲夏天皇

應神天皇神靈從前豐美狹併臨を龍門莊寶城峯皆於山林鹿見一白髮老翁長丈余髮鬢二尺許狀 異常自稱神詰男與龍門宮司正六位大神豐永迎祭二神を尾與峯既而現龜小懸櫻樹枝と詰男豐永龍門宮祭を殿と央云々 三月十五日櫻會 雙龍天皇御宇藤百合稚獻田九町八反以祀田

淳和天皇天長三年丙午三月十五日從五位大神豐朝神功皇后神靈於宇佐配焉遂稱八幡龍門宮平治元年己卯初置社併七功坊神宮寺長福寺光明寺白應寺化應寺觀音寺養德寺皆眞言宗也自宇佐坊中來八月十四日行放生會三日二夜此一祭七坊相共行之建久七年丙辰大友左近將監源能直封受

豊後崇信此神祠祀田尙如元子時大宮從五位下大神豐秀東濱神幸之儀始本社者神祇伯家三所當地天正十九年宇卯大友氏亡後收祀田東幸之儀亦已元和元年己卯大壞廢御神宮寺有雅全元年五月豊前小倉城主小笠原氏所領之時變本社於衰微復于舊領寛延三年扁額磨滅矢黒大學頭高橋貞右上請神祇伯雅富王更書之古書古器物遇大友氏之乱概燒燼云爾

古器物

羊頭鉢 二 銘刻久國相傳 扁額雅富王御親筆 源爲朝所用

鈴。一。雅富天所故 古力 三本。古假頭 二枚

神燈 一封 寛政元年資延天王所獻



りしが降て百六代正親町天皇元龜元正西國の大亂に逢遇し社殿古書類古器物等概ね兵火の爲め焼失す後社殿を再興し奉るも社領は天正の末へ大友の臣宮部某年入の際没收す百八代後水尾天皇元和元年五月豊前小倉國府小笠原氏當社變遷の衰頹を憂慮し舊領に回復せんと九町八反歩の神封を寄せられしも爾後種々災害に罹り現今僅に存す尙本社は神祇伯家の所屬にして寛延三年神祇伯雅富王殿下の扁頭鈴及び寛政元年同資延王殿下献納神燈寶物等今に保存す

三月十五日  
年中大祭日 四月二十日  
十月十五日

卿社八幡竈神社由來一説

社説記曰龜岡莊龜山者日本武命及神功皇后西征之時造行宮徵兵之地也宣宗敬潔祀於是始降三十三に即國常立命天照大神思姬命端津姬命市杵嶋姬命素戔彥命天忍穗耳命天穗日命海津彦根命天津彦根命檜杵日命底筒男神中筒男神表筒男神天兒屋根命天太玉命  
武甕槌神。建御名方神宮寶姬命。大山祇命。加茂別雷命  
大山昨命高麗神荷稻魂神。大物主命日本武尊經津主命  
天照大御神荒魂。月主都姬命廣坂皇子。忍熊皇子

神門宮大縣美伊可祭記

天長三年丁卯三月十五日仲夏天皇

神門宮神靈從前豐前狹狹併隨之龜岡莊寶城峯於山林鹿見一白髮老翁長丈余髭鬚二尺許狀異常自稱十神前男

龜岡宮司正六位大神豐永迎祭一神之尾與峯既而現龜小懸櫻樹枝と詰男豐永龜岡宮祭を履き尖云々祭之祀之也

和天皇御宇藤百合稚田九町八反以祀田

和天皇天長三年丙午三月十五日從五位大神豐朝神功皇后神靈於字佐配焉遂稱八幡龜岡宮平治元年巳卯初置社

七功功神宮寺長福寺光明寺白應寺化應寺觀音寺養德寺皆具言宗也自宇佐坊中來八月十四日行放生會三日二夜此

祭七坊相共行之建久七年丙辰大友左近將監源能直封受

豊後崇信此神祠祀田尙如元子時大宮從五位下大神豐秀東濱神幸之儀始本社者神祇伯家三所當地天正十九年宇卯大友氏亡後收祀田東幸之儀亦巳元和元年巳卯大壞廢御神宮寺有雅全元年五月豊前小倉城主小笠原氏所領之時憂本社於衰微復于舊領寛延三年扁額磨滅矢黒大學頭高橋貞右工司附神祇伯雅富王更書之古書古器物遇大友氏之亂概燒燼云爾

古器物

羊頭鏃 二 銘刻久國相傳 扁額雅富主御親筆 源爲朝所用

鈴。一。雅富天所故 古力 三本。古假面 二枚

神燈 一封 寛政元年資延天王所献

恩顧七日七夜と云ふ程に御病洗ふが如くに平癒しにけり御子御喜ひは斜ならず深く随喜渴仰の涙に咽び給ひ乃ち報恩謝徳のたれにどて宇留嶋久藤原貞久の二人に仰せて如來安置の一字を今の柴石に建立し寛徳元年の春成切し山号を朱湯山院号を寛徳院と号し給ふ又温泉常にたゞて絶る事なければどて寺をば長泉寺と名づけ給ひ永く座跡の地と崇め給今に至るまでなほ皇太子御枕石と申て残りかくて御子還御ましまして寛徳元年の秋御位に即き給第七十代御冷泉天皇と申奉る也然るに去る頃大友氏の乱に御監寶物は皆火のうちに焼つくして残るかたなくなりけるに難有哉導像のみは逃れ免れ給ひしかば里人之れを守りて僅の草堂に安置しいつきかしづしき奉る其後白勇上人これを慨き給ふ事いと深かりければ自ら四方に勸進し字中村なる現今の地へ遂に堂宇を建創如來をうつし奉り供養し給ふ然るに明治初年癘佛毀釋の論四方に湧き爲めに當寺も同五年の秋宏壯なる堂宇を毀て現今の小宇と縮少するに至る爾后不幸運續し荒廢其極に達す三十三年二月現住照譽靜順上人奮然起を難渦の中に收入し眠食を忘れて經營に従事す三十四年の春有志者と相議し現在建立の舊跡に本堂庫裡は再建及び温泉浴場の改良を企て東奔西走着々進行しつゝわれば世の難症者一たび此靈泉に浴し心を癒して名号丹精を抽て祈願するものには願ひのさゝに此を授け給等古今の奇瑞悉記するに遑あらず嗚呼寔に崇い哉是れ偏に兼病悉除身心安樂の寶願空からざる如來の不思議なり仰く可し信べし

黄檗宗圓通山觀音寺略縁起寫

柳も當山の濫觴を尋ぬるに一千有余年前養老四年仁開菩薩一刀三禮を以て本尊如意輪觀音の靈軀を自から誓彫し二大伽藍を創立し玉ひ玉龜浮山相宗寺と号す則ち速見郡大字龜川圓通山觀音寺これなり儼然たる大梵刹ありしも星移り物換り鴻臨衆園の靈地も數百年間荒蕪絶跡狐狸巢窟の地となりたり然るに建治貳年當國の大守大友氏拾貳代中務大輔源持直公中興の祖となり精舍を再建し以て圓通山觀音寺と改稱す之より再隆盛となりしか天正年間より國中戰亂絶る時なく就中慶長貳年の秋大友黒田と石垣原に開戦す爲めに近郷の社寺及び民屋の如きは兵火の至らざる處なく遂に當山も亦烏有破懷の道場となりたり寛文貳年に至り豊前小倉の城主小笠原氏當山の荒廢を憂慮し玉ひ菩提所大禪師を請しを三度の祖となし堂宇を建られし相尋ひで嘉永年間に至り再び山賊の爲め祝融の災害に罹り堂宇及び佛具等悉皆焼燼すされ共本尊觀音寺の菩薩は 煙猛火の中にまじしを依然として毫も焼燬する處なかりしは寔に靈驗不思議の佛体なり是より衆諸の渴仰を増加するに至りたる共堂宇焼燼の後には暫く無住の地となりたりしが去る明治九年度安部智勝禪師進山住職となりたる以來幸若經營同十八年本堂再建し爾後寺門の隆榮日に増し月に進み而して當山第三世の盤岳和尚は世に碩學高德の名府にして曾て延暦三年の頃當町四の湯俄然冷泉と變し泉色泥色となり湯坪の周圍地底鳴動止すして入浴する能はず浴客は勿論村民大に奇懼の思をなし神佛へ祈禱等容易ならざる有様なりしが和尚この變事を痛嘆し已躬ら醫主藥師如來の石佛を刻み湯坪の傍に安置し七日七夜經讀禱祈を込められしが不思議なるかな七日に満するの日地底鳴動忽ち止み泉色温度舊に復したりと當時彫刻せられたる石佛は現今浴場の側に奉安せる藥師如來

神皇正統記に於て云く程に御病洗ふが如くに平慈しにけり御子御喜ひは斜ならず深く隨尊湯仰の涙に咽ひ給  
 ひ乃に御恩謝徳のたりにして宇留崎佐久藤原貞久の二人に仰せて如来安置の一字と今の柴石に建立し寛徳元年  
 の春成明し山号を朱明山院号を寛徳院と号し給ふ又温泉常にならむて絶る事なければとて寺をば長泉寺と名を  
 け給ひ永く皇跡の地と告げ給ふに至るまでには皇太子御枕石と申て殘れりかくて御子還御せしめて寛徳元年の  
 秋御位に即ち給弟七十代御冷泉天皇と申奉る也然るに去る頃大友氏の乱に御監寶物は皆火のうちに焼つくして  
 殘るかたなくなりけるに雖有故傳像のみは通れ免れ給ひしかば里人之れを守りて僅の草堂に安置しいつさかじ  
 つしり奉る其後白明上人これを既し給ふ事いと深かりければ自ら四方に勧進し字中村なる現今の地へ遂に堂宇  
 と建創如來とつし奉り供養し給ふ然るに明治初年癘疫毀釋の論四方に湧き爲りに當寺も同五年の秋宏壯なる  
 堂宇を毀て現今の小宇と縮少するに至る爾后不幸連續し荒廢其極に達す三十三年二月現住無兼頼上人奮然起て  
 廢墟の中に入し既食を忘れて經營に従事す三十四年の春有志者と相謀し現在建立の舊跡に本堂庫裡は再建及び  
 佛具作事の改良を企て東奔西走者々進行しつゝれば世の難症者二たび此靈泉に浴し心志を癒して名号丹精と指  
 して神願するものには願ひのまゝに此を授け給ふ古今の奇蹟悉記するに違わらず嗚呼是に洵い佛に奉り湯  
 浴するの靈泉と云ふ如來の不思議なり仰く可し信べし

近世三國山觀音寺略歴記稿

柳も當山の濫觴を尋ぬるに一千有余年前養老四年仁聞菩薩一刀三禮を以て本尊如意輪觀音の靈軀を自から誓彫し  
 三六伽藍を創立し玉ひ玉龜浮山相宗寺と号す則ち遠見郡大字龜川圓通山觀音寺これなり儼然たる大梵刹ありしも  
 星移り物換り鴻臨衆園の靈地も數百年間荒蕪絶跡狐狸巢窟の地となりたり然るに建治貳年當國の太守大友氏拾貳  
 代中務大輔源持直公中興の祖となり精舎を再建し以て圓通山觀音寺と改稱す  
 之より再隆盛となりしか天正年間より國中戰亂絶る時なく就中慶長貳年の秋大友黒田と石垣原に鬪戦す爲めに近  
 郷の社寺及び民屋の如きは兵火の至らざる處なく遂に當山も亦鳥有破壞の道場となりたり  
 寛文貳年に至り豊前小倉の城主小笠原氏當山の荒廢を憂慮し玉ひ菩提所大禪師を請しを三度の祖となし堂宇を建  
 ちれり相尋ひで嘉永年間に至り再び山賊の爲り祝融の災害に罹り堂宇及び佛具等悉皆焼燼すされ共本尊觀音寺の  
 菩薩は一燼猛火の中にましを依然として毫も焼燬する處なかりしは寔に靈驗不思議の佛体なり是より衆議の湯仰  
 を増加するに至りたる共堂宇焼燬の後には暫く無住の地となりたりしが去る明治九年度安部智勝禪師進山住職と  
 なりたる以來辛若經營同十八年本堂再建し爾後寺門の隆榮日に増し月に進み而して當山第三世の盤岳和尚は世に  
 碩學高德の名府にして曾て延暦三年の頃當町四の湯俄然冷泉と變じ泉色泥色となり湯坪の周圍地底鳴動止すして  
 入浴する能はず浴客は勿論村民大に奇懼の思をなし神佛へ祈禱等容易ならざる有様なりしが和尚この變事を痛嘆  
 し已躬ら醫主藥師如來の石佛を刻み湯坪の傍に安置し七日七夜經讀禱祈を込められしが不思議なるかな七日に滿  
 ずるの日地底鳴動忽ち止み泉色温度舊に復したりと當時彫刻せられたる石佛は現今浴場の側に奉安せる藥師如來

是なり嗚呼佛智の不思議先哲の高徳信す可し仰く可し

御越町勝景

南臺の沿海勝景多し就中本町の山水最も佳かり此地前は渺々たる豊海に臨み遙に豫州の海嶋は雲の如く霞の如く横り佐賀の關と箕ノ崎は左右に斗出し翠巒蜿蜒相對して海を環らし氣船煙を吐ら來り白帆風を含んで往き別府濱臨日出豊岡の長汀由浦は白砂青松の間に隱見て港波靜に渚に迫り漁歌遠く明かなり回顧すれば筑紫富岳兀然として青霄に聳る

巖頂常に白雲を粘し鶴見嶽之れと對峙して微に淡煙く冲天に漲らし南四極山は高く別府灣上に屹度して嵐光滿々羣影を蒼海を浸せり而して扇。龜。太平の嶺山は後方に重疊して山麓の田園遠く開けて巧みに天然の花籃を布き所々の鑛泉は盛んに香煙蒸、蒸發して恰も白龍の昇天する如く誠に山水の勝温泉の靈九國無比の仙郷なり宜哉往昔天神際臨して靈泉湧出し中世月郷車を止めて白龜現出し今や内外紳士雅客の來遊日々に増加せり尙近部の勝景古來名家の吟咏左の如し

由布山

廣瀬淡

宿霧繞晴由布分。北風空翠落紛々。路過羊腹無青艸。天近層標有白雲。未了色從周海見。不孤名與富山聞。同邦每恨佳緣少。傾蓋今朝始遇君。

龜川雜咏

米良東

林巒環海曲。塵肆振江津。泉有喧温浴。閭無伯僕人。河以蠶室所。園畝芋困陣。韻侶多相識。何年來分隣

四極山

崔嵬四極峰。線路墜霜濃。翡翠巢危岸。獼猴挂古松。自勞滄扼潤。身躍白雲重。城堞題崩盡。空餘樵者蹤。

石垣原

三浦梅園

山園舊國鬱岩曉。遺鏃空原鐵半消。鬼哭夜隨風雨起。冤魂秋入海濤驕。分爭霸略指揮失。割據雄圖形勢遙。烈士墳前停杖立。歲寒松老草蕭々。

石垣原夜雨

東海道人

曠野茫茫沙磧平。群雄用武迹靜曠。沈才折戟未鎖盡。夜雨帶々魂器聲。

扇山煖翠

忽濃忽淡幾屏顏。爲晴爲明灣又灣。光景如描人欲喚。微風扇出一崦山。

鶴嶺領浮嵐

落日風帆飛鳥還。海天烟沒佐峨關。地蒸火氣冬獨煖。高潔沖雲鶴見山。

布嶽晴雪

木棉山上白雲封。三十六洋呈遠容。還訝逶迤然突兀。豐南一望玉芙蓉。

御越町重要物産表

一七	島	葡	三〇四五三八貫	一明	礬	一四八五二貫
一七	島	薤	二〇二七八束	一蒟	蕪	五九七四〇貫
一華	薤	薑	五九九八卷	一生	姜	三三八八貫
一生	姜	薑	一六七九〇七俵	一里	芋	二八九三貫
一櫛	實	實	四一三六九貫	一野	菜	四五八三〇一貫
一南	麻	麻	一三〇〇一貫	一生	魚	三五七八〇一貫
一米			九三五八石	一竹	類	二二三〇〇束
二麥			三七六八石	一半	夏	二八八一貫
一乾	鯿	鯿	一五三四三〇貫	一蒲		二二八斗
一生	魚	類	一五六八七〇貫	一清	酒	四九八三斗
一里	芋	芋	一四八二八〇荷	一馬	皮	一九八枚
一菜	種	種	一三九九二斗	一牛	皮	三九九枚
一甘	諸	諸	二八六五一〇貫	一獸	骨	一三八九八貫
一醬	油	油	五五一九斗	一煙	草	二三五六貫
一白	土	土	三八八九一貫			
一硫	黃	黃	三七九八一貫			

神社 御 靈 神 社

本社は當町字羽室にありて祭神は鎮西八郎源為朝公なり往昔爲朝鎮西に下るや暫く此地に止まり四隣を感服し武威顯る盛なりしと土人其武徳を尊崇し之れを此地に奉祀す社後に十二の墳墓あり傳へ云ふ爲朝十二妃の死屍を埋むと或は曰く竈門太郎を此社に合祀すと尙詳細は後編に登錄す

旅客調査表

一旅客員數六萬七百三十五人

速見郡御越村

内 譯

一神奈川縣人	二三一	一岡山縣人	一九九
一東京府人	五七	一廣島縣人	二八八
一京都府人	六三	一長崎縣人	一九九
一大坂府人	七八	一宮崎縣人	三三五七
一兵庫縣人	四九	一熊本縣人	四二二一
一富山縣人	二二一	一大分縣人	二二三二八
一鳥取縣人	二八九	一福岡縣人	一〇一九七
一島根縣人	一八八	一愛媛縣人	一〇二三〇

二高知縣人	四六五八	一愛知縣人	一〇二五八
二新潟縣人	三五七	一和歌山縣人	一〇二四八
二奈良縣人	二五八	一滋賀縣人	二二七八
二香川縣人	一二七	一山口縣人	一八八九
二德島縣人	三五九		

七、島薙の由來

抑も七島薙の當豐後に傳來の濫觴を尋ねるに今を距る事二百三十余年前寛文年中當時府内の商に橋本五郎右衛門と云ふ者あり會て所業の爲り薩摩大隅の間を遍歴するに當り偶々該地方の草薙を見るに其質堅韌にして且つ美麗なる事之を我豊後に産する所の茅に比較して遙に其優れるもの多を察し土民に就き製造方法を質すれば之即ち琉球國の蘭草を以て織るものなりと答へたり是に於てか五郎右衛門心私かに以爲く今此の草苗を得て我豊後に栽培し茅に代ふるに此の蘭草を以てせば其脚圓を益するもの鮮少に非るべしと驪郷家兄八郎右衛門に謀り遂に志を決し單身爾薩州に至り海に航して琉球に赴きたるは實に寛文三年癸卯二月三日の事なり時に海上風濤惡しく船將に覆せんとして漸く一小島に漂着し僅に蘭草あるを認ると雖土民之を愛しを島外に出すら許さず五郎右衛門窃に一針ら旋し竹筒の裏に苗數莖を納め便船を得て歸國したるに悲哉未だ之れが栽培の方法を知らず爲りに遙々携販りたる草苗をして枯死せしむるに至りたり其失望亦察す可し然れども更に勇を盡しを再び渡船の事を企て重ねて該島に赴き現在すると幾旬の久しきに及び具さに百難を忍びて之れの栽培方法を練習し遂に草苗を得て歸國したるは是れ琉球七島蘭草の我豊後に傳りて青蘆産出の權輿なり

或は曰當國日出城主末下左衛門大夫俊長公尊父の遺志を繼ぎ深く意を蘭草の栽培法に留め寛文元年家臣長谷川傳兵衛に命じ八阪村及藤原村の百姓四人を召連れ薩洲に遣し七嶋苗の植付並に薙の織方を傳習せしむ斯くて傳兵衛は同年春之れが傳習を卒り七島前及び薙織器械等を持歸れり爰に於て俊長公郡奉行長澤孫右衛門に命じ廣く領内に栽培せしめ且肥料を下附し頗る七嶋薙の繁殖に盡力せられたり而して横灘(現今御越石垣村邊)は最日出領の近邊なるを以て七嶋苗を引寄せ栽培し夫より漸次國內に傳播し今年々貳百萬圓の巨額を收得するに至り誠に營洲重要の名産となりたり爰に於て目今當地方の有志者相謀り適當地に一社を建立し橋本開祖及び俊長公の英靈を裕祭して海大の遺徳を報謝せんと計畫せり

御越町標本ヨリ各地へ至ル里程表

到着地名	里數	到着地名	里數
速見郡御越町四ノ湯温泉	二丁	同 明 温泉	一里
同 柴石温泉	二十五丁	同 石垣村觀海寺温泉	二里
同 御夢想温泉	七丁	同 堀田温泉	一里八合
同 濱田温泉	六丁	大分郡湯平村湯平温泉	十一里
同 朝日村鐵輪温泉	二十六丁	速見郡豐岡驛	一里

同	日出港
同	杵築町
同	立石驛
大分郡	大分港
同	大分町
同	鶴崎町
北海部郡	佐賀關
同	白杵町
南海部郡	佐伯町

陸二里	直入郡竹田町
海一里四合	玖珠郡森町
五里	日田郡豆田町
五里	同隈町
陸三里六合	東國東郡守江港
海三里	同鶴川驛
陸四里六合	西國東郡高田町
陸七里	宇佐郡長洲驛
十二里三合	下毛郡中津町
十一里六合	同耶馬溪
二十五里	

十五里六合	
十二里	
二十里	
二十里五合	
七里	
十里	
八里五合	
十里五合	
十六里	
十五里	

本縣大分町元標 各地ニ至ル里程表

到着地名

東京府
愛媛縣
福岡縣

里

數

到着地名

數

三百二十一里二十六町	速見郡役所	六十七町
四十六里二町	大分郡役所	三町
三十八里四町	北海部郡役所	八三町

山口縣
熊本縣
宮崎縣
第十二師團
第六師團
第十一師團
長崎縣
西國東郡役所
鶴崎町
久住町
長洲町
安岐町
犬飼町

五十五里二十一町	南海部郡役所
三十里三十二町	大野郡役所
四十九里二十九町	直入郡役所
三十二里二十町	玖珠郡役所
三十里三十一町	日田郡役所
三十里三十一町	下毛郡役所
七十里二十六町	宇佐郡役所
十五里二町	東國東郡役所
二里三町	杵築町
十一里二十七町	別府町
二里二十四町	佐賀關
十二里三十四町	高田町
六里二十二町	

十五里二十七町	
九里二十二町	
十一里十三町	
十里十三町	
二十一里二十町	
二十里二町	
十五里三十町	
十五里二十八町	
九里十三町	
二里二十四町	
七里二町	
十五里二町	

各街道里程表

豐前

大分	三里	別府	二里十九丁	豐岡
豐岡	三十五丁	日出	五里	立石

日向

大分	三里七丁	戸次	二里三町	犬飼
犬飼	二里町	野津市	八里三町	佐伯

街道	立石 三三九丁 長洲 四里 中津
肥後	大分 三里九町 野津原 四里三町 温見 四里十町 竹田 三十丁 玉來
伊豫	大分 二里八町 鶴崎 一里十八町 坂野 二里十八町 佐賀ノ關 坂野市 二里十八町 佐賀ノ關

街道	佐伯 四里三町 直見 二里十町 大原
筑後	大分 三三六町 向原 三里卅町 庄内 三三卅町 川西 三里卅町 中村 二里三町 戸畑
街道	戸畑 三三六丁 豆田

鐵船の部	加茂川 四二二 數
龍田川	四〇八
武庫川	四一七
綠川	四〇八
神戶行	大坂 港名 一等 二 二等 三等 四、八〇〇 三、六〇〇 二、四〇〇 神戶 四、八〇〇 三、四〇〇 二、五五〇 高松 三、四〇〇 二、四〇〇 一、六〇〇 多度津 三、二〇〇 二、四〇〇 一、九〇〇 今治 二、五〇〇 一、九〇〇 一、二五〇 三津濱 二、〇〇〇 一、五〇〇 一、〇〇〇
細嶋行	三津濱 二、〇〇〇 一、五〇〇 一、〇〇〇

大 阪 別

吉野川	三八〇
太田川	四〇八
姫川	四二〇
木船の部	數
扶桑	三一八
保津川	三一八
大野川	三一八
佐波川	三一三
吉田川	二八〇
錦川	三〇九
大龍丸	二九六

長濱	二、〇〇〇	一、三五〇	九〇〇
守江	四五〇	三五〇	二二〇
日出	三五〇	二五〇	一七〇
大分	七〇〇	五五〇	三五〇
佐賀關	一、〇〇〇	七五〇	五〇〇
白杵	一、四〇〇	一、〇五〇	七〇〇
佐伯	二、六〇〇	一、九五〇	一、三〇〇
土々嶋	一、五〇〇	一、一五〇	七五〇
細嶋	一、七〇〇	一、三〇〇	八五〇
八幡濱	一、七〇〇	一、三〇〇	八五〇
吉田	二、六〇〇	一、九五〇	一、三〇〇
宇和嶋	二、六〇〇	一、九五〇	一、三〇〇
舟越	二、六〇〇	一、九五〇	一、三〇〇
深浦	三、〇〇〇	二、二五〇	一、五〇〇
宿毛	三、〇〇〇	二、二五〇	一、五〇〇

商 船 會 社 支 店 府

但シ特別一等ハ二等五割増ノ事十二才未滿半額



御越町人口戸數田畑山林宅地 泉反別表

人口	三千五百五十八人
戸數	六百八十二戸
田反別	二百五十一町五畝拾步
畑反別	百拾壹町三反五畝七步
山林反別	貳百六町六反壹畝貳步
宅地反別	三拾町三反八畝六步
鏡反別	壹反九畝廿九步

御越馬車賃金表

行先地名	里	程	成規ノ賃錢		切符手數料		合計金
			日	赤	立	長	
日出町	二里五勾		拾錢參厘	拾八錢五厘	貳錢壹厘	參錢七厘	拾貳錢四厘
松	三里七合		拾八錢五厘	參拾五錢	七	錢	廿貳錢貳厘
石	七里		參拾五錢	五拾六錢五厘	七	錢	四拾貳錢
洲	十一里三合		五拾六錢五厘	貳拾五錢	五	錢	六拾七錢八厘
築	五里		貳拾五錢	七	錢	三	拾錢
府	一里四合		七	錢	壹錢四厘		八錢四厘

備考

一 乘客ハ壹人壹里ニ付平道ハ金五錢難道ハ金七錢トス

一 切符ノ手數料ハ壹里ニ付金壹錢トス

一 乗車賃ハ總テ切符引替ニ申受クル

一 乘客事故アリ途中ニ於テ降車スト雖モ既取ノ賃錢ハ返付セス

一 夜行及雨雪泥濘ノ際ハ貳割増以上ノ事項ヲ重ネノルモハ四割増ヲ請求ス

一 暴風雨ノ際ハ三割増夜行ハ五割増ヲ請求ス

御越町役場銀行

御越町役場

御越町大字龜川所在

町長 恒松美之  
収入役 高橋竹次郎  
吏員 矢黒大角  
全上 和田泰作

創業日明治三十年十月三十日

株式御越貯蓄銀行

資本金三万圓

右

頭取 永田重郎  
常務取締役 藤内友次  
全 高橋爲吉  
全 高橋幸平  
監査役 藤内與平

監査役 原田新一  
全 荒金小太郎  
全 松本弥三郎  
全 佐藤庄三郎

本町温泉泉記

龜陽泉

位置及び浴場排池

本泉は當町大字龜川市街の中央に存在す後、は國道に界し左右は旅舎に連り前は昔時海に濱し源泉浴室の後側より湧出す而して浴場は石を疊みて構造し湯坪を男女の二室に區別し尙側に蒸湯瀧湯沙湯等を設け入浴頗る便利にして四方の眺望絶佳なり

龜陽泉

沿革

本泉は古來の靈タにして其創始は今を去る事千有余年以前にあり本泉舊記に曰く豊後國龜甲村白龜塚の南一丁余の所に特効の温泉ありと而して白龜塚縁記に曰く抑この白龜塚なるものは弘仁年中橋夏野公豊前國宇佐八幡宮の救

使として都より下向の途次當國里屋津に來り玉ひ海邊の風光佳絶なるを愛し暫く此里に寓居し玉ひ國土鎮護の爲め火男火賣神を旅館の側なる北と南の二盤石に鎮座四季鎮火の祭典を初め祈禱し玉ひ後ら公は都へ歸り玉ひしが公の子孫年々祭事を執行せり然るに嘉祥元年六月この二盤石の前池より雌雄の白龜現出せり時に公の御子重平公なるもの之れを靈瑞とし皇都へ捧げ奉られしに神龜の現出は天下の吉瑞なりと御救命ありて白龜は元の池に返放し玉へり是よりこの二盤石を男龜甲石女龜甲石と号し村名も亦龜甲村と改めたりと之れに由て之れを見れば本泉は已に千有余年前存在せしものなるが中世災變の爲め埋没せり

而して明治聖世に至り彼の橘夏野公の後たる額川の里人高橋重基氏なるもの之れを諸舊記中より發見し實地に徵せしに白塚塚の南一町余を去る或部分の土地毎歳栽培する作物の早熟するを奇とし明治十七年の春右高橋氏及びハ嶋卯三嶋作氏等の有志者首唱して村民と相謀り試掘せしに果せる哉靈泉湧出す諸人其一千歳以前の舊記の虚ならざるを驚嘆欣喜し吉辰を下して之に湯泉場を再興するに至る即ち今の龜陽泉是なり而してこの温泉の諸病に効驗顯著なる事恰も神の如く遠近之れを傳稱し浴客日に増し月に加はり未だ數年ならずして一ヶ年數万人の多きに達す誠は無双の靈泉なり

俗間傳稱經驗效能

- 一關節痠痛質斯
- 一痛風
- 一婦人子宮病
- 一疥癬
- 一筋疾
- 一腫物
- 一惡瘡
- 一膀胱及腎病
- 一腺病
- 一重病後の恢復期

四ノ湯

位置及浴場構造

本泉は當町大字龜川の西部に存在し西は小丘を負ひ北及び東は旅舎を圍らし南方は田圃遠く開け源泉浴室の西側に發す而して浴場は石を疊みて構造し浴池は男女別室に分ち其他の結構各其宜しきを得四圍の風光最も閑雅なり

沿革

本湯は太古の發見に係るを以て其年月不詳と雖も日本四名湯の一にして伊豆國熱海温泉攝津國有馬温泉伊豫國道後温泉と共に我國の四の湯と稱せられ其名天下に噴々たり

故に本湯四の湯と名稱しある所以なり又一名金湯と名づくとは湯坪の敷石一面に星霜數百年を経たる金色の湯垢附着し日光之れに映する時は光輝燦然恰も延金の如し由て之の稱あり而して本泉は古來最も諸病に効驗顯著にして人皇三十一代用明天皇此温泉に入浴し玉ひ後ら人皇六十九代後朱雀天皇皇太子親仁親王御療浴あらせられし事蹟あり然るに延暦三年四月俄然冷泉と變し泉色泥色となり湯坪周圍地底鳴動止すして入浴する能はず浴客は勿論村民大に奇懼の思をかし神佛へ加護を祈る等容易ならざる有様なりしが時に本村觀音寺三世盤岳珠老和尚とて碩學厚徳の名僧ありこの變事を痛く嘆息し已躬ら醫王藥師如來の古佛を刻み湯坪の傍に安置七日七夜の間讀經祈禱を込められしが不思議なるか七日に滿する日地底の鳴動忽ち止み泉色温度舊に復したりこゝに於てか村民の悦び云ん方なく直に浴場の側に堂宇を營み石佛を奉安せり是れ現存の藥師如來なり爾後本泉の靈驗昔日に倍し遠

○廿八  
 近之れを傳稱して來浴者頗る多し降て明治の聖世に至り浴客年々に増加せるを以て泉場を改築して入浴を便にし且泉質の病症に適否如何を示さん爲めに官廳に明治十四年大分縣廳衛生課に於て泉質を分拆し其成蹟を布達せられ尙明治二十八年三月里民相謀て大坂府衛生試驗所に於て再び明確なる分析を請ひたり其分拆の成蹟及醫治効用左の如し

第五一號

一 泉

大分縣豊後國速見郡御越村 壹種  
 宇龜川湧出溫泉四の湯

定 量 分 拆

分拆の爲め差出したる水は無色澄明にして臭味なく微弱亞爾加里性の反應を呈し煮沸すれば其亞爾加里性を倍す之が定量分拆を遂ぐるに本水毎「リートル」中の因形物は「二二六」グラムにして其各成分の「グラム」量左の如し

硫酸加留謨	〇、〇八四
硫酸那篤留謨	〇、〇〇四
硫酸加爾叟謨	〇、一二三
格魯兒那篤留謨	〇、六七八
重碳酸那篤留謨	〇、〇九三

重碳酸麻久 叟母	〇、〇五一
重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇七
酸	〇、一九七
土 痕 迹	
遊 離 炭 酸	〇、〇三一

右の成蹟に據れば此礦泉は弱鹽類泉に屬するものとす弱鹽類に應用すべき病症は概子左の如し

- 一慢性僂麻質斯 一痛風
- 一慢性腎炎 一腎孟炎
- 一膀胱炎
- 一慢性皮膚病 疥癬。雁瘡。外傷。打撲  
田虫。濕疥
- 一神經機兀進或は神經機痲痺の諸症
- 一婦人生殖器慢性加多兒(白帶丁)
- 一炎症後或は創傷後漆出物
- 一尿道加多兒(痲病)
- 一胃病 胃炎。溜飯痛。胃癢胃神經痛  
食傷の胃痛慢性加多兒

一重病後の恢復期

大坂衛生試験所

所長 島田耕二

衛生試験所技手

主任 喜多尾元英

俗間傳種効能

疥癬惡瘡

柴石湯

位置及び浴場構造

本泉は本町大字野田の中部に位し東の方四ノ湯及び濱田の温泉場南鐵輪温泉と各一小丘を隔て龜川市街を去る事十余丁泉側に客舎數戸ありし最も幽靜閑雅なり

而して浴場は鶴見山の北麓の間に存在して北の巖石を鑿て浴池となし泉源は浴場の西側より發す加ふるに寬を以て清水を浴池に引き温熱度を自由ならしめ南溪に臨み瀑を爲す其數六流にして高さ何れも十尺其流力各差異あり浴者其流力の強弱を撰み腹背四等を打たしむ其温度人体に適し頗る決を覺近傍巖石を槌破すれば石片中に木葉形を現出す此地因て柴石の名あり

泉質 含鐵炭酸泉無色透明にして稍澁滴性の銹味を有し其反應は酸性にして煮沸すれば亞爾加里性を呈し「ナール」中一、五八六一瓦馬の固形分を含有し千分中より檢出せる各成分及其量左の如し硫酸加里叟母〇、〇〇六〇〇、硫酸那篤留母〇、四三〇一二格魯兒那篤留母〇、三六三一七格魯兒加叟母〇、二〇〇〇二格魯兒麻久温叟母〇、〇六八〇六重炭 那篤留母〇、二二二一〇八重炭酸麻久温叟母〇、〇一〇八四重炭酸亞酸化鐵〇、二二二〇七二礬土〇、〇〇一四二〇〇、二二八〇二

有機物 痕跡

合計一、七四九四五

流離炭 〇、一五三一温度百六十三度

俗間傳種効能

疥癬。惡瘡。濃潰收斂強壯

醫治用

貧血萎黃病。貧血病。重病後の恢復期經閉及び生殖器諸病神經機の衰弱等、遍應す

御夢想湯

位置及浴場構造

本泉は富町大字野田の北部龜山の麓字湯の森にあり浴場は石を以て構造し四面開淵最も決氣を覺ぬ

泉質 鹽類泉

無色無臭なり味酸鹹なり其反應は中性にして煮沸亞兒加里性を呈し「ソーダ」中固形分一二、四瓦馬を含有せり其各成分左の如し

亞兒加里	著明	加爾基	僅獄	麻久温亞	少量
礬土	少量	鐵	痕跡	硫酸	少量
酸鹽	著明	硼酸	著明	酸	僅欲
炭酸	少量				

合一、二四九温度百三十一度

明湯

位置及浴場の構造

本泉は本町大字野田字明祭即鶴見山の北麓に存在し四面開淵空氣流通尤も宜し而して浴場は石を疊みて構造し浴泉は後側より發す客舎數戸最も閑雅幽靜なり

濱田温泉

位置及浴場

本泉は當町大字内窰門字古市々街の南八丁龜川市街の北六丁豊前國道の西數歩の所に存在す東は海に濱し西南北の三面は田圃遠く開け客舎四隣を圍繞して入浴頗る便利なり而して浴場は石を疊みて構造し貳箇所の浴室各數區に分ち或は井り或は沙湯等の設あり満潮の時は海潮滲入するを以て海水浴を兼ねるの功あり

濱田温泉

沿革

本泉は去る明治十貳年當町字古市區の人高橋増吉氏の發見開鑿する所なり始め氏の之れを發見するや從來區内一の温泉場なく區民頗る入浴に苦めり而して氏も亦之れを憂ふること茲に年あり或夜手に錫杖を携へたる一老僧を夢む時に老僧其に誨へて曰く汝宜しく温泉を開くべしと即ち杖を以て氏が所有の或耕地を畫して去る氏翌朝其耕地を檢するに此地毎歲作物早熟せるを以て或は温泉の湧出せんことを慮り之れを區民に議せしに區民も亦これを翼贊し共に試掘に従事せり然るに奇なる哉靈なる哉開鑿すること未だ數間ならずして忽ち温泉噴出すこと於てや區民喜び一方ならず然れども泉質尙水分多量にして統良の温湯を得ず是れより氏獨り辛苦經營こと三載一朝感する所あり始めて完成するに至るまで假りに浴室を營公衆の浴場となし且住宅を徙し浴客の寓舎に充つ然るに幸なる哉泉質大に諸病に効驗顯著にして四方の來浴者日に増し月に加はり今や一小部落を成すに至れり誠に高橋氏の熱心温泉の特效感すべし稱すべし

俗間傳稱效能

- 一 關節痠麻質斯
- 一 婦人子宮病
- 一 惡瘡
- 一 胃痛
- 一 腺病
- 一 疥癬
- 一 痛風
- 一 重病後恢復期

○卅四

### 温美湯

位置及構場

本湯は當町宇温美に存在し三方は小丘を負ひ一方は田野遠く開け長江を隅て海水に通じ滿潮の時は小舟を浮べて自由に往來すべし且浴場は石を疊みて構造し性狀は無色清澄にして頗る諸病に効驗顯著なり殊に純良の清水左側より噴出し誠に世の紳士雅客の保養上好適の幽靜閑居ある勝區なり

尙本泉分質の分拆表は後編に示す可し

### 筋湯

位置及構場

本湯は本町大字龜川市の中央に位し前は直ちに豊前街道に接し泉質最も諸病に特効ありて從來四方の難病者本泉に來浴して全治したるもの擧て數ふ可からず田て近頃來浴者日々に増加して頗る高名をす温泉場となつたり

尙泉質の拆醫治効用は後編に登錄すべし

## 天然湯の花

湯ノ花ハ當町宇伊山ノ特産ニシテ鑛脈ハ芳名ナル柴石ニ接近シ其成分最良ニシテ諸病ニ頗ル効驗アリ依テ左ニ分拆表醫治効用及ビ用法ヲ記載シ江湖諸君消御注文ノ便ニ供ス

### 分拆表

本品ハ絹糸様ノ光輝アル結晶ト少量ノ粘上ヲ交ヘタルモノニシテ酸性ノ反應ヲ呈シ沸煮スルモ其質ヲ變スルコトナシ本品百分中其分左ノ如シ

一 硫酸アルミニウム	三五、二七	一 硫	酸	八、九二
一 硫 化 鐵	四、八七	一 硫 酸 鐵 鹽		一三、五六
一 硫 酸 苦 土	二、九三	一 炭 酸 石 灰		五、二八
一 酸 礬 土	一〇、〇七	一 那 篤 留 母 鹽 類		五五、一七
一 加 留 母 鹽 類	六、七三	一 水		七、二〇
合 計	一〇〇、〇〇			

○卅五

## 醫治効用

〇卅六

本品を風呂湯に溶着して入浴せは左の諸病を治す効能頗る顯著なり

〇疥癬〇痒疹〇鱗屑癬〇汁疹〇濕疹〇水疱瘡〇皮膚癢痒〇白帶下(白血長血)〇寸白〇血の道〇月經不順〇子宮痛  
〇子宮加答兒〇 加答兒〇梅毒〇淋病〇陰部の癢痒〇不潔の潰瘍〇悪性膿疱疹〇癩病〇腺病〇虛弱病〇貧血症〇  
遺尿〇慢性便秘症〇瘰癧〇鬱癆病〇痲痛〇脊體勞〇筋關節リョウマチス〇痔疾等の諸症に特功あり

## 注意禁忌

本品は白粉を灰色に變せしむる故藥湯に入浴する時は浴前十分白粉を洗落し 後水又は他の湯に能く洗ひ湯びを去りて白粉を用ゆるべし

## 〇用法

如め水壹石の中に貳百五十匁と塩三合を入れて翌日より其湯に毎日百二十五匁を入るとなり一週間目には新に水を替ゆべし但暑中は三日目

## 入浴者ノ心得

- 一 遠來の患者疲勞したる時は暫時休息して然る後入浴す可し決して頓に入る可からず
- 一 身体虛弱なる患者及び老人小兒は初より數度入浴す可からず又長湯する勿れ
- 一 飲食後又は空腹なるとき或は非常に疲れたるときは直ちに入浴すへからず
- 一 頭痛又は發熱の時は入浴を見合す可す
- 一 入湯したる後發汗するとも衣服を脱し邪氣に觸るゝへからず
- 一 入浴中はなるべく静には可し大聲又は湯中を潑る杯す可へかず
- 一 入湯中非常に下痢又は其他病症を發したる時は直ちに醫師診察を乞ふ可し
- 一 一夜は早く寢て朝は早く起るを好しとす晝寢飯寢等は決して爲す可からず且一日に三四回は近處を散歩す可し
- 一 湯治中飲食は成へく制食し酒に酔たる時は入浴す可らず大に害あり又房事は一切之を慎む可し

〇卅七



豊後御越町名家録

豊後御越町名家録

い る は 順

農 簗門 伊藤 新作

農 野田 伊藤 治平

農 温美 井上 市次郎

農 總川 伊藤 淺太郎

醫師 古市 今村 孝内

商 龜川 原田 新一

商 平田 原田 庄三

農 竈門 本田 槌作

農 古市 藤内 友次

農 同 藤内 三平

農 同 藤内 應太

農 古市 藤内 儀藏

農 古市 藤内 萬六

農 古市 藤内 政治

農 古市 藤内 農作

商 龜川 豐嶋 筆吉

農 龜川 豐嶋 逸次

商 龜川 大石三郎治

商 同 脇 新作

農 同 脇 荒治

農 古市 渡邊廣吉

農 龜川 加藤清

農 平田 加藤惣平

農 龜川 梶原太

農 同 横山金次

商 同 高橋源治

商 同 高橋周平

僧 侶 同 高橋正道

農 竈門 田中灘十郎

農	農	僧	農	商	商
恒	同	侶	同	同	古
松	高	高	高	高	市
美	橋	橋	橋	橋	橋
之	竹	慈	竹	爲	幸
作	次	綠	次	吉	平
	郎		郎		
寇	川	川			
門	高	高			
	橋	橋			
	三	三			
	杖	杖			

農	農	農	農	神	商	商
恒	野	同	寇	官	同	同
松	田	恒	門	土	永	永
喜	恒	松	屋	屋	田	田
六	松	繁	範	範	重	敬
	太郎	太郎	二	二	郎	藏

農 同 永田壯三

農 温美 永田稔

農 竈門 宇都宮久吾

農 同 宇都宮伊六

農 同 宇都宮七郎

農 柴石 宇都宮八藏

農 竈門 原友作

農 伊山 牧福治

農 同 草牧利市

農 野田 楠本伊平

神官 竈門 矢黒大角

商 古市 松村弥三郎

商 同 村 兼 市

農 野 田 藤 一

農 平 田 藤 嘉 四 郎

農 龜 川 小 嶋 卯 三

醫 師 古 莊 深 一 郎

農 温 美 小 畑 林 吾 郎

農 温 美 小 畑 松 藏

農 同 小 畑 七 藏

農 同 小 畑 宗 一 郎

商 龜 川 衛 藤 介 治

農 龜 門 手 嶋 專 作

農 平 田 手 嶋 菅 太

農 古市 荒、金 謙太郎

農 平田 荒、金 孫作

農 同 荒、金 應太

農 同 荒、金 龜一

農 古市 荒、金 寛太郎

農 平田 荒、金 辰三郎

農 平田 荒、金 太郎作

農 同 荒、金 謹次

農 同 荒、金 次

農 古市 佐藤 庄三郎

農 龍門 佐藤 虎太郎

農 同 吉良 幸太郎



農 同 溝 部 美 之 作

農 同 溝 部 四 作

農 同 溝 部 柴 太

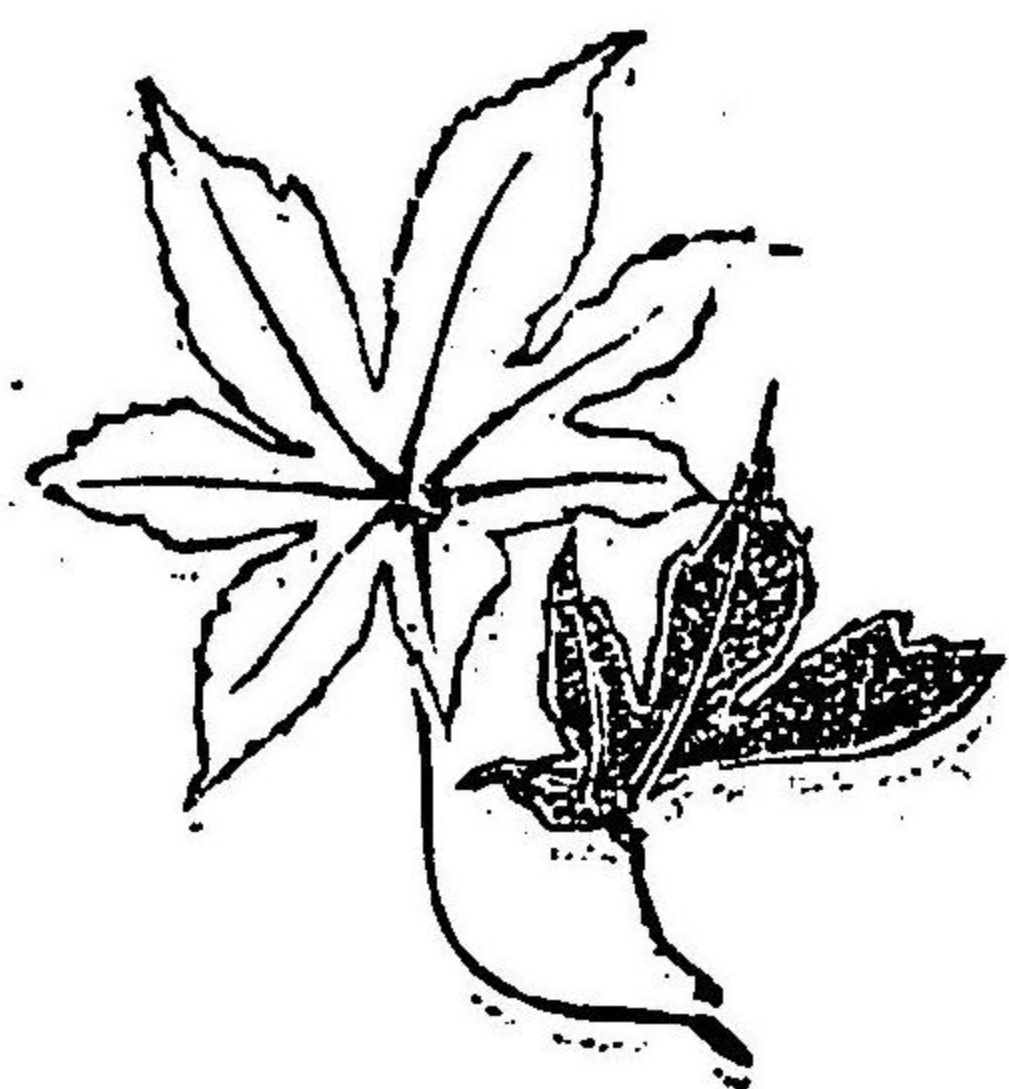
農 同 右 田 利 作

農 平 田 尾 秋 太

農 平 田 宮 尾 伊 平

農 柴 石 藤 太 郎

農 同 森 鐵 太 郎



豊後御越町旅館名録

いろは順 龜川

入湯旅館 糸永郁次

同 一九〇〇

入湯旅館 一丸

同 田壽一

入湯旅館 原田壽一

同 豊嶋とり

入湯旅館 豊嶋とり

古市 藤内棟太郎

入湯旅館 藤内棟太郎

同 藤内市次郎

入湯旅館 藤内市次郎

同

入湯旅館 藤内作太郎

龜川

入湯旅館 小野徳風

同

入湯旅館 大石良平

明礬

入湯旅館 渡邊惣助

龜川

入湯旅館 加藤いと

同

入湯旅館 加藤九つ

・明礬

入湯旅館 加藤きは

同

入湯旅館 神崎荒一郎

同

入湯旅館 加藤金次

龜川

入湯旅館 横山佐太郎

古市

入湯旅館 吉田ヒツ

龜川

入湯旅館 高橋律藏

龜川

入湯旅館 高橋 弥太郎

同

入湯旅館 高橋 崎太

同

入湯旅館 高橋 士才

同

入湯旅館 高橋 慶次

同

入湯旅館 竹下 いわ

同

入湯旅館 竹野 傳次

龜川

入湯旅館 田中 儀三

古市

入湯旅館 高橋 増吉

同

入湯旅館 高橋 新太郎

同

入湯旅館 高橋 小一郎

同

入湯旅館 高橋 しも

龜川

入湯旅館 直木 孫九郎

古市

入湯旅館 成 瀬 仙 次 郎

同

入湯旅館 宇 都 四 六

龜川

入湯旅館 宇 都 宮 七 八 六

同

入湯旅館 矢 田 龜 太

同

入湯旅館 矢 田 兼 吉

古市

入湯旅館 藤 井 政 吉

古市

入湯旅館 藤 川 禮 作

龜川

入湯旅館 小 嶋 勘 三

同

入湯旅館 衛 藤 勘 太

同

入湯旅館 手 嶋 豐 作

古市

入湯旅館 佐 藤 四 十 郎

同

入湯旅館 吉 良 戶 市

龜川  
入湯旅館 三ヶ尻 卯作

同  
入湯旅館 三ヶ尻 久平

同  
入湯旅館 三ヶ尻 如み



# 大分縣志

沿革、位置、廣袤、人加、戸數、町村數、郡名、道路里程

## 沿革

本縣は豐後一國及豐前二郡を管轄す往昔豐の國と稱し後ち孝德天皇の時に至り豐前豐後と別れたり而して彼の神武天皇御東征の時此地より珍彦なるもの出でて皇軍の先導となり景行天皇の時土蜘蛛の叛あり降て壽永の頃平宗盛安徳天皇を奉して當國に來りしが洲人緒方惟義なるものありて平氏に服せず攻めて之れを走らせたり其後源頼朝平氏を一統せしより其庶子大友能直をして豐前豐後の兩國守護職とせり斯くて後ち世々大友氏の領地となりしが徳川氏の時に至り大友氏は亡び豐後の地は久留島大給木下稻葉中川毛利能見の七民之れを領し豐前二郡の地は前きに小笠原氏之れを領し後ちに奥平氏之れを領せり尙豐後には徳川幕府の直轄地及び熊本島原延岡諸藩の支邑ありたり斯くて明治の初年に至り豐前二郡の地は他の豐前の地と共に小倉縣下となり豐後一國は大分縣となり後又現今の豐前二郡も合せて大分縣管轄となりたり

## 位置

本縣は九州の東北部に位し北は周防灘に濱し東は硫黄群を隔てて四國と相對し南は日向に隣り西は肥後筑前筑後三國及び豐前筑上郡に接せり

### 廣 袤

東西凡三十里南北凡廿二里面積四百九万里

### 人口戸數

人口七十九万七千八百余人戸數十五万三千五百余戸

### 町村數

町數拾六村數參百六拾參

### 郡 名

大分、北海道、大野、直入、日田、玖珠、速見、東國東、西國東、宇佐、下毛、の拾貳郡あり

州

## 一速見郡志

位置、廣袤、人口、戸數、物産  
名邑、高山、大川、古跡

### 位 置

本郡は本縣の中央より稍北部に位し東は箇箇の灣に濱し西北は宇佐東國東西國東の三郡に連り西南は玖珠那東南大分那に界し正南一角僅に直入那に接す

### 廣 袤

東西五里十八丁南北六里三十丁面積三十五万余里

### 人口戸數

人口七萬三千三百八十八戸數一万四千四百四十五戸

### 物 産

硫黃。明礬。生糸。青蕪。生姜。海參。蠶針。竹。織物。甲付鰻。牛皮。竹皮。薪。炭。漆。木圍。生蠟。榿實。魚類。湯の花

### 名 邑

#### 杵築町

此地は能見氏の舊城下にして區裁判所警察署監獄支署郵便電信局銀行會社等ありて

繁盛なる市街なり

### 別府町

本町は古來有名の温泉場にして現今戸數一千五百七十八戸人口六千五百八十五人を有し海陸共に運輸便利なる本郡の最良港なり

### 日出町

木下氏の舊城下にして郡役所警察署郵便電信局銀行諸會社等ありて繁榮なり

### 濱脇町

別府と朝見川を隔て、相隣り市内特効の温泉數ヶ所ありて繁盛なる市街なり

### 豊岡龜川立石

何れも豊前街道に當れる人家稠密なる一市街なり

### 高山

由布。鶴見。扇。鹿鳴。妙見。伏。雲岳。津波戸。高崎。鐘塔等の諸山あり

### 大川

鳴。由布。八坂。天間。朝見。鳴川等の諸川あり

### 古跡

#### 大友家忠臣吉弘嘉兵衛統行公墳墓

墳墓は朝日村豊前街道を西に去る數丁にあり公は豊後國主大友家の家老なり慶長五年九月大友家黒田氏と石垣原に軍を構ふ時に公は固より智勇兼備の魔將にして兼て東西所屬の利害を説き忠諫行はれず而も尙寡兵を以て黒田の大敵に當り奮闘勇戦大に敵兵を破り斯くて黒田の援兵益々加はるに及び遂に手勢二百余人と深く戦死を遂げられたり後ち寶泉寺住職公の自刃の場所へ一基の墳墓を建設す香花今に至りて絶へず忠烈の芳名千載の下尙赫々たり

### 白龜塚

白龜塚は本郡御越村字龜川の沿海にあり古へ此地は雌雄の白龜上陸せしかば土人之れを靈瑞とし時の主上の聖覽に供へ奉り販途白龜落命せしかば其死屍を此地に埋め雌雄の兩塚を建て之れを白龜塚と稱す

## 二 大分郡志

位置。廣袤。人口。戸數。物産。名邑  
高山。大川。神社。寺院

### 位置

本郡は本縣中央部にありて東は北海郡に接し北は別府灣に濱し西北は遠見郡に連り西南は直入郡及び大野郡に界せり

### 廣袤

東西八里十二丁南北三里三十丁面積二十九万里余

### 人口戸數



人口十一万六千二百九十四人戸數二万四千四百六十三戸

### 物産

米、生糸、博多織、馬、毛織、半夏、午夢絹布、鮓、食鹽、海苔、魚類

### 名邑

#### 大分町

本町は大友大給両氏の舊城下にして今は縣廳那役所裁判所中學校警察本部縣會  
議事堂監獄署病院郵便電信局銀行會社等ありて人戸二万四千二百人を有し本縣  
第一の都會なり

#### 鶴崎町

伊豫街道に當れる良港なり

#### 三佐村

乙津川の西濱にある良港なり

#### 高岡

西庄内村にある一市街なり

#### 西大分町

此地に師範學校り

### 高山

### 大川

高崎。大岳御座。隙子。香。鉢塔。河内。大面。白陽星王子。大龍。熊牟禮。本宮。利光等の諸山あり

大分。赤阪。阿曾野。大野。由布。栲網の諸川あり

### 神社

#### 國幣中社寒多神社

本宮岳の麓にあり

### 寺院

#### 龍祥寺

狹間村にあり臨濟宗

#### 國分寺

賀來村にあり天台宗なり

#### 萬壽寺

大分町にありて臨濟宗なり

#### 寶戒寺

豊府村大字上野にあり眞言宗なり

# 三 北海部郡志

位置。廣袤人口。戶數。産物。名邑。  
高山。海島。古跡

## 位置

東北は海に濱し西は大分大野二郡に接し南は南海部郡に界せり

## 廣袤

東西二里南北五里三十二丁面積二十万里余

## 物産

蜜柑。梅子。薯。紙。海苔。海鹿草。魚類等なり

## 名邑

### 白杵町

此地は稻葉氏の舊城下にして今は郡役所區裁判所警察署郵便電信局農學校中學校等ありて頗る繁盛なる市街なり

### 佐賀關

葛島の西北にありて縣下第一の良港なり

### 下ノ江

下ノ江村ありて繁盛なる良港なり

## 高山

基盤嶽、津久見嶺、九六位山、白木嶺、羽衣山、

## 海島

高島、地無垢島、沖無垢島、津久見島、

## 古跡

### 速吸ノ瀬戸

神武天皇は東征の時解 せられし遺跡なり

## 四 南海部郡志

位置、廣袤、人口、戶數、物産、  
名邑、高山、大川、海島

## 位置

本郡は本縣の東南隅に位し西は大野郡に接し北は北海部郡に南は宮崎縣東白杵郡に連り東南は海に濱せり

## 廣袤

東西九里三丁南北八里三丁面積三十九万里余

### 人口戸數

人口七万九千三百三人戸數一万四千二百四十三戸

### 物産

蜜柑、紅菜、鱒、干鰯、鱒、海苔、海鹿草等なり

### 名邑

#### 佐伯町

本町は毛利氏の舊城下にして郡役所區裁判所警察署監獄署郵便電信局銀行等ありて繁盛なる市街なり

### 高山

尺間岳、次郎坊、立、三國峠、箱立、宇土嶽、夏木峠、朝日嶽、彦嶽、母牟禮、城の諸山あり

### 大川

番匠、大灘江、大越、床木、因尾、尺間、上津、久留須、山部、の諸川あり

### 海島

鹽取島、彦、竹、玉角、網代、片白、栗、長、箕作、濃地、女、八高手、小間、大、横、地里

中里島、三子、植島、沖、屋形、深島、辨天島

## 五大野郡志

位置、所屬人口、戸數、物産、名邑、高山、大川、古跡、鑛山、巨瀑

### 位置

本郡は本縣の南部に位し東は北北郡南海部の二郡に接し西は直入郡に北は大分郡に連り南は宮崎縣の東臼杵西臼杵の二郡に界せり

### 廣袤

東西六里二十一町南北十里十五町面積六十五万里余

### 人口戸數

人口七万三千三百九十五人戸數一万四千九百二戸

### 物産

雜穀、茯苓、紫根、葛粉、椎茸、紙、鉛、銅、鉛、錫、等なり

### 名邑

三重村 大分白杵熊本鹿兒島に通ずる四達の要地にして郡役所警察署郵便電信局等あり

重岡小野市犬飼 皆繁盛の市街なり

### 高山

祖母岳、大白山、鳥屋山、鍛山、旗返、樟、神角寺、三王、御岳、上津、高山寺、代三五、牧、白鹿、尾平、王子、白山、星河、朝日、赤松越、桑原、木浦、傾、島の諸山なり

### 大川

大野、赤嶺、井崎、稻葉、吉田、門田、津牟禮、宇田枝、和田、酒井寺、野津院、柴北、矢田、田代、小野市、宇田等の諸川なり

### 古跡

建武中勤王の土立花貞順公墳墓 稻葉河と吉田河の二川合流の下流大波にあり

### 鑛山

尾平山木浦山何れも銅鉛錫を産出す

### 巨雄沈墮瀧

門田川の大野川に入る處にあり直下十丈幅六十間水徑數十條あり

### 沈墮瀑瀧

矢田田代二川合流北に至る處にあり直下十丈余

### 六直入郡志

位置 〇 廣袤 〇 人口 〇 戸數 〇 物産 〇  
名邑 〇 高山 〇 大川 〇 古跡 〇 温泉 〇

### 位置

本郡は本縣の南部に位し東は大野郡に連り西北は玖珠大分し二郡に接し西南は熊本縣阿蘇郡宮崎縣西臼杵郡の二に郡界せり

### 廣西

東西三里卅丁南北九里廿二丁面積三十五方里余

### 人口戸數

人口四万三千七百七十二人戸數八千九百三十八戸

物産

〇七十四

名邑

大豆〇小豆〇蕎麥〇煙草〇當歸川 〇鳥頭〇半夏〇生糸〇紙〇串柿〇素麩〇白孝魚〇榎葉魚等なり

竹田町

本町は中山氏の舊城下にして現今郡役所區裁判署警察署監獄支署郵便電信局諸會社等あり頗る繁盛なる市街なり

玉來菅生久住

何れも人家稠密にして繁榮なる市街なり

高山

祖母岳〇九重〇留木〇雄嶽〇飯〇稱宜〇南〇大船〇黒〇神〇原〇三笈の諸山なり

大川

白瀧〇久住〇原〇狹田地〇湯原〇山田〇阿藏〇柏原〇陽日〇朽網〇阿蘇野〇門田の諸川なり

古跡

騎牟禮の城址

久住村の南方源爲頼の築處

土蜘蛛ノ窟岩

山田川の南岸にかゝり

景行天皇の行在所

和疑野山にあり

温泉 七里田寒川湯の原

七玖珠郡志

位置〇物産〇名邑〇高山〇大川〇巨瀑〇古跡〇神社〇

位置

本郡は本縣の中央より稍西部に位し東北は速見郡宇佐郡に接し西北は日田下毛の二郡に連り南は直入郡及び熊本縣阿蘇郡に界せり

物産

米〇楮皮〇竹皮〇椎茸〇下駄材〇藥物〇炭〇蜂蜜〇茶〇繭〇

名邑

森町

久留氏の舊城下にして現今は郡役所警察署郵便電信局銀行會社等ありて本郡中第一の市

〇七十五

### 高山

街なり

硫黄〇涌出〇三俣〇伏魔〇萬年〇平家〇角埋〇含鮮〇寶〇翻株〇扇〇陣〇巖扇〇西の諸山あり

### 大川

玖珠〇森〇湯坪〇田代〇町田〇大納水〇龍門の諸川あり

### 巨瀑

#### 震動の瀧

玖珠川の上流にあり

#### 織月瀧

玖珠川の下流にあり

### 神社

#### 瀧神社

平川驛にあり醍醐天皇の御子章明親王の御姫君小松姫を奉祀す

### 古跡

#### 角埋山の城址

仁平年中源為朝の築く處

## 八日田郡志

位置〇廣袤〇人口〇戸數〇物産〇  
名邑〇高山〇大川〇古跡〇

### 位置

本郡は本縣の西端部に位し東は玖珠郡北は下毛郡に接し南は熊本縣阿蘇菊池鹿本の三郡に界し西は福岡縣の朝倉入女浮羽の三郡に連れり

### 廣袤

東西三里三十町南北八里三町面積四十五方里余

### 人口戸數

人口六万四千四百四十四人戸數一万八百七十一戸

### 物産

米〇材木〇茶〇楮〇實〇藥草〇芋〇紙〇椎茸〇蕨粉〇鮎等なり

### 名邑

#### 豆田町

舊徳川幕府直轄地にして現今郡役所區裁判所警察署郵便電信局等ありて繁盛なる市

隈町

筑後川の河畔にありて最も材木の輸出多く且陸路舟舸共に便利の市街なり

高山

長野〇高井〇権現〇三國〇札木〇龜ヶ尻石五馬〇湯山〇羽田〇能渡〇龜翁の諸山なり

大川

花月〇隈〇玖珠〇小島〇津江〇日田〇河内〇一ノ瀬〇有田〇大山〇高瀬

古跡

岳林寺

光岡村に在り釋楚俊開基にして後醍醐天皇敕願の靈場なり天皇及び楠正成公の舊跡なり

縣社木原八幡宮

田島村に在り

九下毛郡志

位置〇廣袤〇人口〇戸數〇物産  
名邑〇高山〇大川〇勝景

位置

本郡は本縣の西北部に位し東は宇佐郡に西は福岡縣の築上京都田川の三郡に接し南は玖珠日田の兩郡に界し北は海に濱せり

廣袤

東西三里二十七町南北七里三十一町面積三十三方里余

物産

材木。米。雜穀。生糸。菜種。生蠟。榎實。柿苞。紙。博多織。魚類等なり

名邑

中津町

本町は奥平氏の舊城下にして現今郡役所區裁判所警察署郵便電信局銀行會社中學校私立女學校等ありて人口一万五千余を有し頗る繁盛なる市街なり

樋田守實

皆繁盛なる市街なり

# 高山 大川

英彦山。檜原。鐘。鹿熊。屋山。柳瀬等なり

山國川。跡田川。大丸川

## 溪勝景記

耶馬溪勝景は豊前國下毛郡山國の沿岸に在りて其間里程十數里勝景百こゝに其秀逸なるもの數景を記さん

### (一) 香魚歸

を以て香魚昇る能はず故にこの稱あり

眞坂村の手斧立阪の麓にあり百の溪水巖に激して白駒躍り万雷孔へ忽にして瀧となる

### (二) 青の隨道

之れを貫きて澗路を通じ其の長さ一町余にして所々に岩窓を穿ち明光を徹り洞内を照らす道は迂餘蛇蟠として或は明く或は暗らぐ萬類全く至らざるへし是れ實に江戸淺草の僧禪海なる者前後三十余年間苦辛經營し寛延三年八月の頃漸く成功せし處のものにして洞門の中央岩上に石像を安置するは是れ即ち後世の入其奇特を感じ僧の靈を祝れるものなり

### (三) 新羅漢寺

新羅漢寺は往古空也上人の錫を留めし名刹にして跡田村羅漢山に在り山麓の石級を

登れば左側に山徑在り上る事致丁にして路愈々狹し己に丘頂に達すれば路幅僅に數尺兩岸は斷崖絶壁高さ數千尺伏して直下を望めば戰々兢々殆んど起つ能はず而も首を上くれば右は巖々たる巖岳高く雲表に聳へ羅漢寺の堂宇は巖頂に懸り老松古杉其麓に參差たり而して左方に遙に連山圍繞して所々に奇石怪巖群立し或は龍の天に昇る如く或は獅子の花に狂ふが如く或は駒の走る如く一として奇觀ならざるなし而して中央の小岳は即ち古羅漢にして綠樹鬱蒼として丘上に飛來峰天人橋の勝景を顯はし丘下は降龍川々として環流す真に別天地の想あり而して漸く前徑を登れば左京の橋に至る之れ天然の洞門なり橋を渡り裏道を下れば僅にして平路を得之れ本道なり左側に無漏と名くる洞窟在り五百羅漢を安置す洞内清泉あり味ひ甘露の如し洞を出て再び洞門を通すれば即ち羅漢寺なり境内廣くして寺院半ば洞窟に没すこゝに於て遠く前方をせ 俯は先きに恐るもの喜ぶもの皆眼下にあり誠に天下の絶觀なり

### (四) 洞

羅漢川の上流井原村にあり突亢たる飯森山の岩根河中に斗出し溪流の音響岩石と相反して恰も洞窟の鳴る如し其上に架せる橋を洞鳴と稱す此邊一帶觀望最佳絶なり

### (五) 山陽投筆場

柿坂村の河畔にあり前は川に望み後は山を負ひ山甚だ高からずと雖も遠山近峰各其宜きを得河岸の巖頭青松屹立して恰も一幅の山水畫に對する如し古へ山陽先生暫く此地に寓居し一日筆を採て此勝景を畫かんとす時に嵐光絶妙にして想はず筆を投せりと後世此地を山陽の投筆場と稱す

### (六) 猿飛

草木にあり怪巖聳立深潭万丈耶馬溪中最奇稜なる景色にして又他に類きかる可し



# 十字佐郡志

位置。廣袤。人口。戸數。物産。  
名邑。高山。大川。神社。

〇八十二

## 位置

本郡は本縣の北部に位し東は西國東遠見二郡に接し南は遠見玖珠の兩郡に連り西は下毛郡に界し北は海に濱せり

## 廣袤

東西三里三十丁南北七里十丁面積二十七方里余

## 人口戸數

人口七万六千六百三十四戸數一万三千三百六十九戸

## 物産

米、雜穀、生糸、茶、榎實、辛島織、食鹽等なり

## 名邑

### 四日市

本郡中の要樞にして郡役所警察署郵便電信局等ありて繁盛なる市街なり

### 長洲港

本郡中第一の良港にして船舶常に輻し海陸便利の市街なり

### 宇佐町

官幣大社八幡宮及太樂寺等あり繁盛なる市街なり

## 高山

御許、和尙、妙現、鹿嵐、人見、立石、烏帽子、三岳等の踏山あり

## 大川

驛館、庄川、寄藻、向野、伊呂波、牛尾、松木、新貝、山藏、椎谷の踏川なり

## 神社

### 宇佐八幡宮

宇佐町にあり

## 十一 西國東郡志

位置、廣袤、人口、戸數、物産、  
名邑、高山、大川、寺院

## 位置

本郡は本縣の北部に位し東は東國東郡に南は遠見郡に接し西北は海に面し西南は宇佐郡に界せり

〇八十三

廣表

東西三里十一丁南北五里九町面積十五方里余

人口戸數

人口四萬八千九百八十八戸八千八百八十九戸

物産

米、生糸、樺實、生蠟、錫物、青蕪、魚類、食鹽

名邑

玉津町

此地は桂川に沿ひ對岸の高田町と共に市街をなし郡役所區裁判所警察署郵便局等ありて繁盛なる市街なり

高山

箭。苗猷。應理。田原。尻突。波多方嶺の諸山あり

大川

桂。松行。加禮。田澁。波多方。都甲眞玉。竹田等の諸川あり

寺院

雲陀寺

田原村にあり臨濟宗なり

十二東國東郡志

位置、廣表、人口、戸數、物産、名邑、高山、大川、神社、寺院

位置

本郡は本縣の東北端に位し西は西國東郡に接し南は速見郡に界し東は硫黃灘に北は周防洋に濱せり

廣表

東西三里二十一町南北六里二十一町面積二十三方里余

人口戸數

人口五万九千五百四十八戸數一万五千五百廿九戸

物産

米、生糸、樺實、青蕪、大豆、芋、魚類、食鹽等なり

名 邑

國東町

一名鶴川と稱し郡役所警察署郵便局等ありて繁盛なる市街なり

安岐町。富來町

皆な繁榮なる市街なり

高山

兩子、妙見、文珠、千燈の諸山あり

大川

田深、武藏、伊美、富來の諸川あり

神社

縣社奈多八幡宮

成久驛にあり

寺院

安國寺

鶴川にあり

總持院

兩子山の麓にあり

明治三十五年八月十五日印刷

明治三十五年八月三十日發行

〔非賣品〕

島根縣邇摩郡湯里村大字西田  
六十一番地

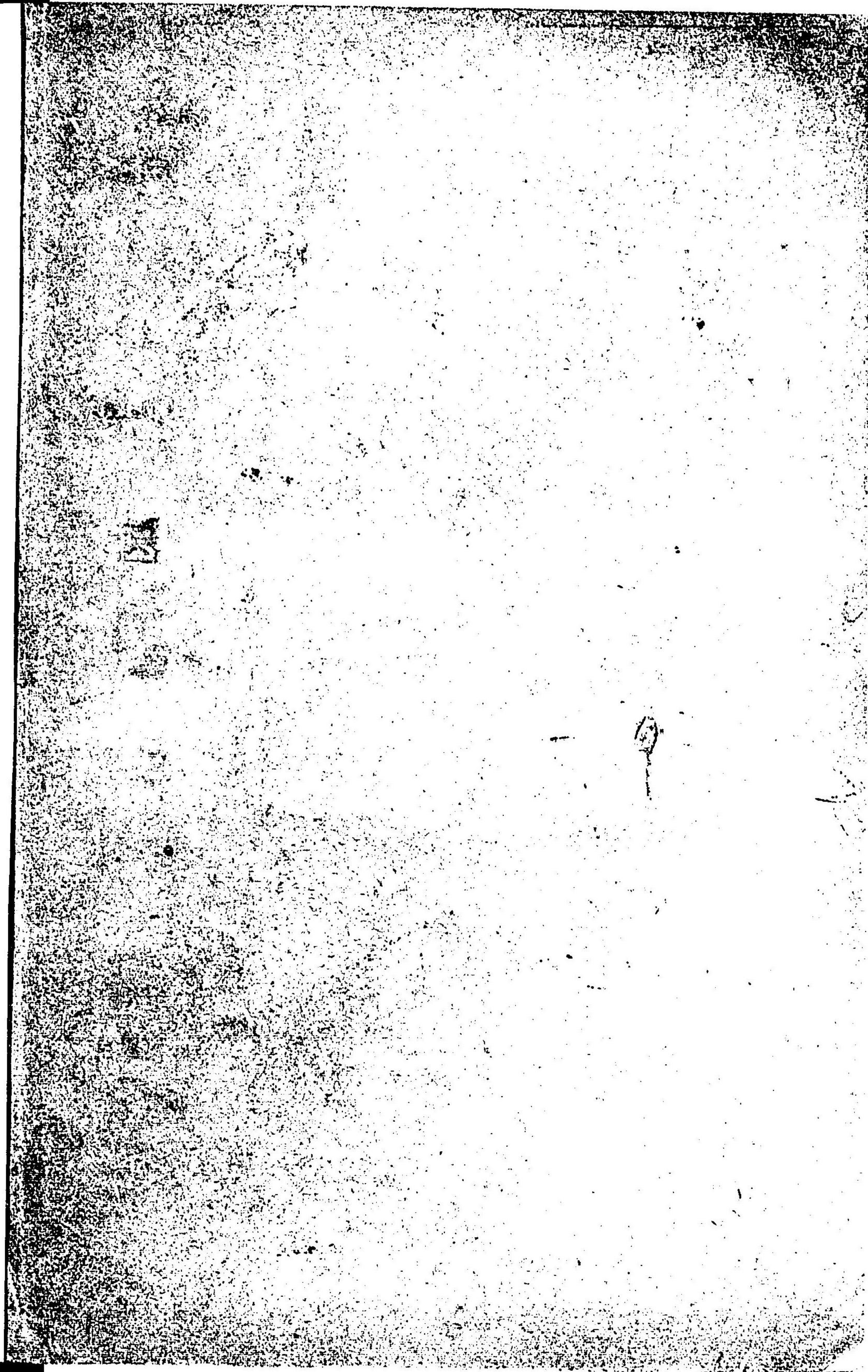
編輯兼發行者 熊谷禎二郎

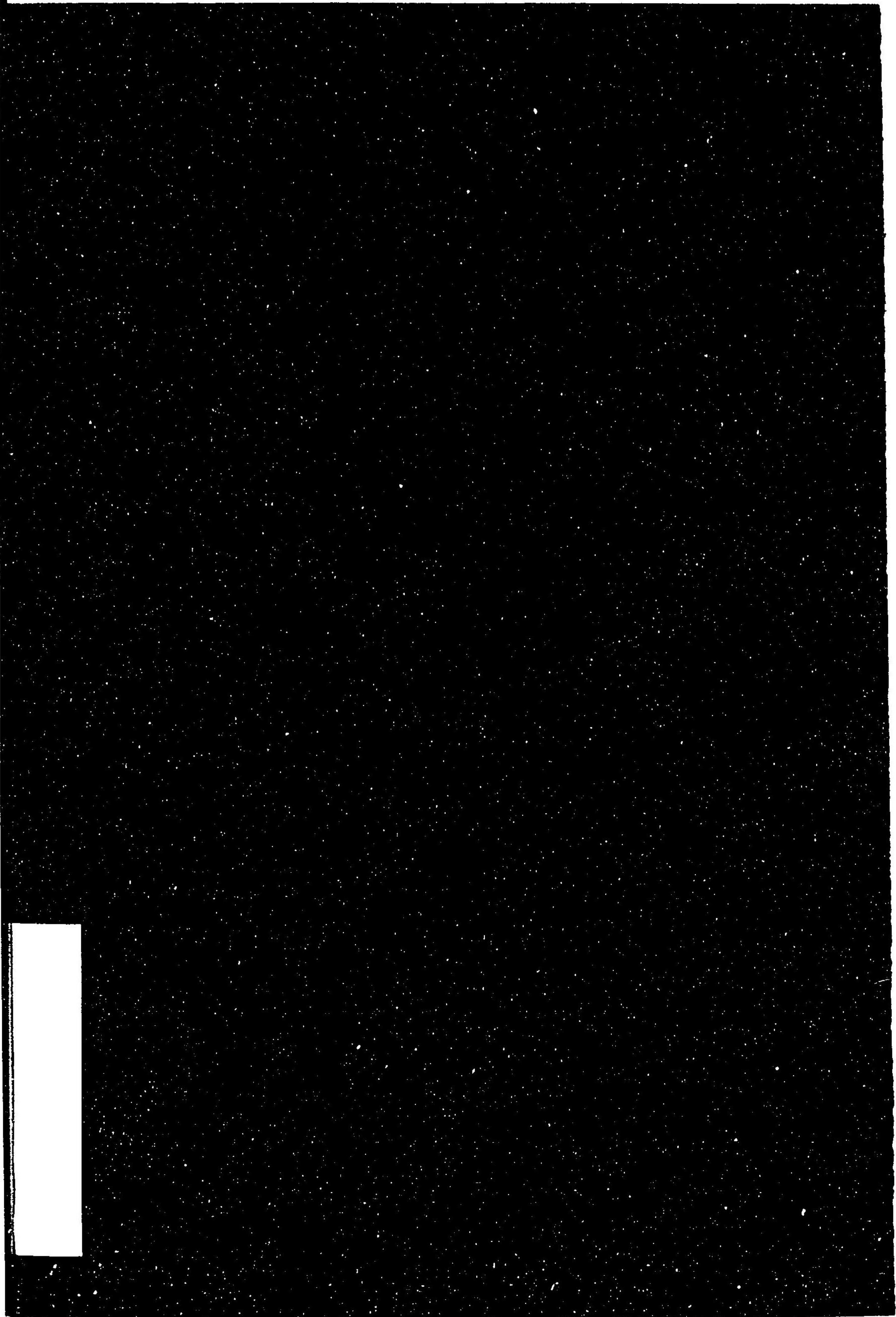
大分縣大分郡大分町二ノ八百四十三番地

印刷者 扈山 兼吉

右同所

印刷所 朝日堂





[Redacted text]

特45

659

豊後御越町志

国立国会図書館

026316-000-4

特45-659

豊後御越町志

熊谷 禎二郎 / 編

M35

ADC-4102

